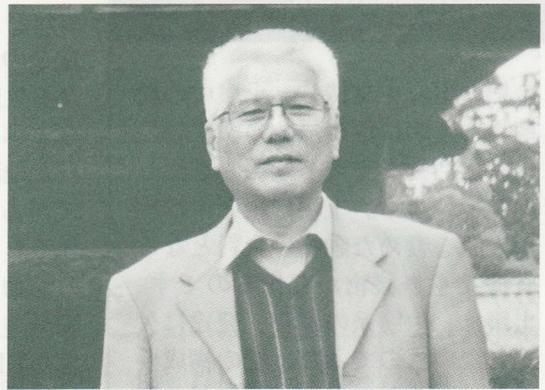


## 太田 映知 「公害病患者とともに 公害は終わっていない」



2009年7月31日現在  
倉敷市の公害病認定患者  
1,449人は今なお厳しい闘病  
生活を強いられている

倉敷大気汚染公害病患者の闘いは、1996年の公害裁判の和解で一定の区切りを付け、2000年に水島地域環境再生財団(みずしま財団)を立ち上げ、環境再生・街づくりへと発展させています。

しかし、今なお1,400名を越える公害病認定患者が厳しい闘病生活を余儀なくされている現実に眼を向けることが大切です。

みずしま財団では、水島協同病院と一緒に倉敷公害死亡患者遡及調査研究班を立ち上げ、1976年から2000年までの25年間に水島協同病院で亡くなられた公害健康被害補償法の認定患者501例を対象に、その医学的な側面を中心に分析した報告書をまとめました。

「公害死亡者遡及調査」(3冊セット/箱入り)購入申し込みは、みずしま財団へ。

一般的に、「公害は終わった」論が広がっていますが、公害は決

して終わっていません。公害病患者は、高齢化と重症化による厳しい闘病生活を強いられ、日夜苦しみ続けています。1988年に新規認定は打ち切られましたが、公害病患者の発生が零とは思えません。

発ガン因子として知られるベンゼンの濃度が、水島石油コンビナート地域で高く、微小粒子状物質(PM2.5)とともに重視し、環境改善が必要です。

1976年からはじめられた「環境週間・全国公害被害者総行動デー」は、「公害の根絶と平和を求めて」をスローガンに掲げて、①公害被害者の救済、②公害の根絶、③環境再生と街づくり、を三本柱の要求に据えて闘いを進め、今年で35回になります。

倉敷の公害病患者たちも第1回から毎年10名、多いときは40名もの代表が参加し、私もその一員となってきました。

公害被害者総行動は、主に健康被害者が中心ですが、安中公害、大阪国際空港公害、名古屋新幹線公害、横田基地公害、薬害スモン、予防接種禍、薬害ヤコブ、薬害イレッサ、瀬戸内の環境を守る連絡会や道路公害反対運動、最近では、川辺川ダム建設に反対する住民の方々や諫早湾の締め切り堤防を開門させる運動を進めている漁民の皆さんとも一緒に政府交渉をしています。

健康被害では、イタイイタイ病、水俣病の被害者は勿論のこと全国各地の大気汚染公害被害者と共に運動を続けています。

～地球は子や孫から  
預かったもの～  
～手渡したいのは  
青い空～



### 太田 映知氏

1938年宇部市生まれ。水島地域環境再生財団専務理事。  
(財)おかやま環境ネットワーク理事。